

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記7の第6の1の(1)関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度～令和6年度)

静岡県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

本県では、34市町で被害防止計画が策定されている。各市町は、被害の軽減目標を達成するため、侵入防止柵の整備、被害防止目的の捕獲、緩衝地帯の整備、被害防止研修会等を実施している。

2 事業効果の発現状況

市町による地域住民を主体とした被害防止対策の取組及び県の神座育成の取組等により、農作物被害額はピークであった平成21年度から減少傾向にある。

3 被害防止計画の目標達成状況

令和6年度を被害防止計画の目標年度として事業評価を行なった12事業主体のうち、被害金額又は被害面積で目標を達成したのは1事業主体であった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	獣種	被害防止計画の目標と実績							
											被害金額(千円)				被害面積(ha)			
											現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率
沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	沼津市	令和4年度 ～ 令和6年度	イノシシ ニホンジカ サル カラス ハクビシン カワウ	推進事業	(R4) ・止め刺しアルミ棒・槍刃15本セット購入 ・射撃研修会の開催	沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.12.21	100%	止め刺しアルミ棒・槍刃の導入により、安全な距離を保つての処理や迅速な止め刺しが可能になるなど、鳥獣捕獲における安全性の向上及び効率化を図ることができた。 また、射撃研修会の開催により、座学及び実技を通して銃の特性や安全な取扱方法・点検方法を再確認することができ、銃による捕獲活動の意識及び技術の向上を図ることができた。	イノシシ	7,690	6,550	6,674	89.1%	3.50	2.95	3.09	74.5%
					(R5) ・射撃研修会の開催	沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	—	—		ニホンジカ	8,499	7,200	7,374	86.6%	2.90	2.45	2.44	102.2%
					(R6) ・射撃研修会の開催	沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	—	—		サル	2,753	2,340	2,417	81.4%	1.61	1.35	1.35	100.0%
				緊急捕獲活動支援事業	(R4) イノシシ成獣 128頭 イノシシ幼獣 44頭 シカ成獣 138頭 サル成獣 18頭 ハクビシン 1頭 カラス 198頭	—	—	—	緊急捕獲の実施により、農作物への鳥獣被害の減少させることができた。しかしながら、依然として被害量は多いため、今後も継続して積極的な緊急捕獲に取り組んでいく。	カラス	1,432	1,200	1,393	16.8%	1.06	0.90	0.86	125.0%
					(R5) イノシシ成獣 152頭 イノシシ幼獣 6頭 シカ成獣 188頭 シカ幼獣 3頭 サル成獣 11頭 カラス 259頭	—	—	—	R4 20,137千円 855a R5 19,457千円 834a R6 19,229千円 829a	ハクビシン	1,407	1,200	1,371	17.4%	0.65	0.55	0.55	100.0%
					(R6) イノシシ成獣 130頭 イノシシ幼獣 35頭 シカ成獣 190頭 シカ幼獣 2頭 サル成獣 4頭 カラス 148頭	—	—	—	カワウ	1,003	850	—	—	—	—	—	—	
					合計値	22,784	19,340	19,229	103.2%	9.72	8.20	8.29	94.1%					
				推進事業	(R4) ・侵入防止柵設置研修の実施(1回) ・箱わな大 1基を整備	あいら伊豆広域有害鳥獣被害対策協議会	—	—	柵設置研修によりイノシシの農作物被害の発生を抑制する効果が確認出来た。わなについては購入からの捕獲数は7頭で稼働率は87%となっている。地域におけるイノシシの総数の減少となる結果となり、中型獣の捕獲圧を高めることが出来た。	イノシシ	1,753	1,227	863	169.2%	7.75	6.59	1.61	529.3%
					(R4) イノシシ成獣 41頭 イノシシ幼獣 3頭 シカ成獣 21頭 シカ幼獣 1頭 ハクビシン 3頭 アナグマ 3頭	—	—	—	豚熱と思われる個体数減少の影響か市内にイノシシの頭数減少したことにより一定の捕獲はあったが例年よりも少ない捕獲数となった。	サル	29	26	—	—	0.14	0.13	—	—

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	獣種	被害防止計画の目標と実績								
											被害金額(千円)				被害面積(ha)				
											現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率	
函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	函南町	令和4年度 ～ 令和6年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン カラス サル アナグマ タヌキ	(R4) 被害防除研修会の開催 研修資材(くくりわな、忌避剤)の購入		函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	—	—	中山間地において、イノシシによるスイカ等の野菜類やサツマイモ等のいも類、牧草等の飼料作物の被害が多発し、またニホンジカによる牧草等の飼料作物、イチゴ等の野菜の被害も多かったことから、環境省の指定管理鳥獣捕獲等事業と連携しつつ、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、函南町鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動の効率化を図った他、電気柵のバトロール、被害防除研修会の開催によって総合的な対策に取り組んだ。これらの取組により、町内におけるイノシシの有害捕獲頭数は令和4年度から令和6年度にかけて81%増加、シカの有害捕獲頭数は横這いであったが、毎年50頭近く捕獲されている(令和4年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで97頭、シカで50頭。令和6年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで176頭、シカで46頭)。	イノシシ	1,184	1,066	1,233	-41.5%	1.01	0.91	0.40	610.0%	
				推進事業 (R5) 被害防除研修会の開催 講師謝金の支払		函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	—	—	函南町鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動の効率化を図った他、電気柵のバトロール、被害防除研修会の開催によって総合的な対策に取り組んだ。これらの取組により、町内におけるイノシシの有害捕獲頭数は令和4年度から令和6年度にかけて81%増加、シカの有害捕獲頭数は横這いであったが、毎年50頭近く捕獲されている(令和4年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで97頭、シカで50頭。令和6年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで176頭、シカで46頭)。	ハクビシン	268	241	79	700.0%	0.13	0.11	0.03	500.0%	
				(R6) 被害防除研修会の開催 講師謝金の支払		函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	—	—	函南町鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動の効率化を図った他、電気柵のバトロール、被害防除研修会の開催によって総合的な対策に取り組んだ。これらの取組により、町内におけるイノシシの有害捕獲頭数は令和4年度から令和6年度にかけて81%増加、シカの有害捕獲頭数は横這いであったが、毎年50頭近く捕獲されている(令和4年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで97頭、シカで50頭。令和6年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで176頭、シカで46頭)。	ニホンジカ	277	249	648	-1325.0%	0.15	0.14	0.21	-600.0%	
			緊急捕獲活動支援事業	(R4) イノシシ成獣93頭 イノシシ幼獣4頭 シカ成獣50頭 ハクビシン21頭 カラス100羽 アナグマ8頭 タヌキ5頭		—	—	—	町内におけるイノシシの有害捕獲頭数は令和4年度から令和6年度にかけて81%増加、シカの有害捕獲頭数は横這いであったが、毎年50頭近く捕獲されている(令和4年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで97頭、シカで50頭。令和6年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで176頭、シカで46頭)。被害金額については、令和2年度2,163千円(基準値)から令和4年度1,178千円、令和5年度2,589千円、令和6年度2,048千円と推移している。	カラス	370	333	88	762.2%	0.11	0.10	0.02	900.0%	
				(R5) イノシシ成獣150頭 イノシシ幼獣19頭 シカ成獣58頭 シカ幼獣2頭 ハクビシン35頭 カラス109羽 アナグマ13頭 タヌキ15頭		—	—	—	町内における被害は、イノシシによる被害が50～60%を占めている。令和4年度に豚熱がまん延したことによりイノシシによる被害が激減し、目標値である1,947千円を達成していた。しかしながら令和5年度に豚熱による影響が減少した結果、イノシシの出没が多くなったことにより、被害が増加した。令和5～6年度にかけて捕獲数の増加により、令和6年度の被害額は抑えられた。	サル	—	—	—	—	—	—	—	—	
				(R6) イノシシ成獣163頭 イノシシ幼獣13頭 シカ成獣42頭 シカ幼獣4頭 ハクビシン28頭 カラス85羽 アナグマ3頭 タヌキ13頭		—	—	—	被害面積についても令和2年度141a(基準値)から令和4年度19a、令和5年度76a、令和6年度66aと推移しており、同様の理由からである。	アナグマ	59	53	—	—	0.01	0.01	—	—	
											タヌキ	5	5	—	—	—	—	—	—
											合計値	2,163	1,947	2,048	53.2%	1.41	1.27	0.66	535.7%

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	獣種	被害防止計画の目標と実績										
											被害金額(千円)				被害面積(ha)						
											現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率			
清水町鳥獣被害防止対策協議会	清水町	令和4年度～令和6年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	推進事業	(R4) ・くくりわな資材の購入 ・電気止め刺し機1基の購入	清水町鳥獣被害防止対策協議会	—	—	(R4 くくり罠資材及び電気止め刺し機) くくり罠資材を購入したことで、くくり罠を仕掛けることができ、被害報告があった場合に対応できる箇所が増えた。また、電気止め刺し機においては大型獣のとめさしを行う際に安全に止めを刺すことができた。	イノシシ	9	8.1	8.1	100.0%	0.04	0.036	0.04	0.0%			
					(R6) ・銃安全技術講習会の開催(捕獲機材整備) ・箱わな(大)2基の購入 ・箱わな(小)1基の購入	清水町鳥獣被害防止対策協議会	—	—	(R6銃安全技術講習会、箱罠の購入) 銃安全技術講習会を実施することで猟銃の誤操作による事故を未然に防ぎ、射撃技術の向上及びその習得意欲向上を図った。また、くくり罠の設置に適していない場所で被害報告が確認された場合に対応するため、箱わなを導入した。	ニホンジカ	1	0.9	0.9	100.0%	0.01	0.009	0.01	0.0%			
				緊急捕獲活動支援事業	(R4) イノシシ成獣2頭 シカ成獣6頭	—	—	イノシシ 緊急捕獲を実施することで個体数の減少に努めた。	ハクビシン	6	5.4	5.4	100.0%	0.03	0.027	0.02	333.3%				
					(R5) イノシシ成獣1頭	—	—	ニホンジカ 緊急捕獲を実施することで個体数の減少に努めた。	合計値	16	14.4	14.4	100.0%	0.08	0.072	0.07	125.0%				
					(R6) イノシシ成獣1頭 シカ成獣2頭	—	—	イノシシに比べ、被害箇所が様々である。													
				富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	富士宮市	令和4年度～令和6年度	シカ イノシシ サル ハクビシン アライグマ カラス カワウ	推進事業	(R4) ・埋設用重機借上げ 1回 ・被害防除研修会の開催 1回 @研修会用くくり罠用ばね購入50本	富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	—	—	被害相談のあった農地において、鳥獣被害防除の方法について検討会を実施した。また、ベテラン捕獲者による捕獲機を活用した被害防除について講習を行った。現場で研修会を行うことで、実践に即した効果的な方法を学ぶことができ、防除対策の技術の向上を図ることができた。	ニホンジカ	4,516	4,677	4,300	100.0%	154.12	155.99	118.50
(R5) ・埋設用重機借上げ 1回 ・安全講習会の開催 1回	富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	—	—						猟銃事故防止を目的に、猟友会を対象に安全講話及び猟銃の基本操作、実技演習を実施し、35名が参加した。銃の操作技術の向上のほか、安全に取り扱うための心構えを再認識する機会となった。	イノシシ	495	512	471	100.0%	0.36	0.37	0.28	100.0%			
(R6) ・埋設用重機借上げ 2回 ・被害防除研修会の開催 1回 @研修会用くくり罠購入 13基	富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	—	—						野生鳥獣による農作物被害を減らすために、農業委員や推進委員を対象に鳥獣被害対策の進め方や箱わな、くくり罠の安全な使い方について研修会を実施した。高齢化等により狩猟者が減少する中、地域の農業者の代表である農業委員等を対象に研修会を実施することで、地域に波及し箱わな等を活用して農業者自身で対策を行っていく意識付けを行うことができた。	サル	297	308	283	100.0%	0.07	0.07	0.05	100.0%			
緊急捕獲活動支援事業	(R4) シカ 529頭 イノシシ 87頭 サル 6頭 カラス 17羽	—	—					野生鳥獣による被害として、林業については富士山麓の人工林及び天然林における樹木の剥皮や新芽の食害、農業については中山間地域及び富士山麓の農地における牧草や水稲、野菜全般の食害、踏み荒らし等が発生している。これらの被害を低減するために、猟友会における緊急捕獲事業を行っている。捕獲実績としては、シカ及びイノシシの捕獲頭数が令和4年度から令和6年度にかけて年々増加している。	ハクビシン	753	780	717	100.0%	0.53	0.53	0.41	100.0%				
	(R5) シカ 551頭 イノシシ 98頭 サル 8頭 カラス 6羽	—	—					被害面積について、令和4年度16,082a、令和5年度14,907a、令和6年度11,939aと減少している。被害額については、令和4年度5,054千円、令和5年度6,118千円、令和6年度6,083千円と令和5年度に増加したが、全体としては減少しており、事業の効果が出ていると考えられる。	アライグマ	—	—	—	—	—	—	—	—				
	(R6) シカ 595頭 イノシシ 165頭 サル 6頭 ハクビシン 2頭 カラス 17羽	—	—						カラス	22	23	21	100.0%	0.03	0.03	0.02	100.0%				
									カワウ	—	—	—	—	—	—	—	—				
													合計値	6,083	6,300	5,792	100.0%	155.11	156.99	119.26	100.0%

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	獣種	被害防止計画の目標と実績							
											被害金額(千円)				被害面積(ha)			
											現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率
藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	藤枝市	令和4年度 ～ 令和6年度	イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、サル、ハクビシン、アナグマ、タヌキ、アライグマ、カラス	推進事業	(R4) 緩衝帯整備 995㎡ 被害地区パトロール車両リース 地域研修会開催	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	—	—	緩衝帯整備を実施することにより、農作物に被害を与える有害鳥獣の棲み処となる草木の刈り払いにより、農地に有害鳥獣が出にくい環境にすることができ、農作物被害が減少した。 地域研修会を通じて、地域住民の専門的な知識が身についた。これにより、各農地での正しい対策を取れるようになり、農作物被害への軽減につながる。また、R5年度よりGPSを活用したサルの生息状況調査も開始した。サルの行動を確認し、今後の更なる捕獲強化につながっている。	イノシシ	5,439	8,800	6,556	33.2%	5.29	8.70	7.84	74.8%
					(R5) 緩衝帯整備 642.5㎡ 箱わな(中)2基購入 被害地区パトロール車両リース 地域研修会開催 サル生息状況調査	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	—	—		ハクビシン	1,257	1,110	1,116	95.9%	0.79	0.70	0.68	122.2%
					(R6) 緩衝帯整備 390㎡ 被害地区パトロール車両リース 地域研修会開催 サル生息状況調査	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	—	—		カラス	259	230	219	137.9%	0.17	0.15	0.12	250.0%
				整備事業	(R4) 侵入防止柵(H=1.2m)の設置(西方下大沢地区) 995m	西方(下大沢)イノシシ被害対策協議会	令和5年2月9日	—	侵入防止柵の設置により、農作物被害を防ぐことができた。柵周辺に罠を設置することにより、捕獲を効率的に行うことができた。	サル	161	120	103	141.5%	0.11	0.08	0.05	200.0%
				緊急捕獲活動支援事業	(R4) イノシシ(成獣)300頭 イノシシ(幼獣)38頭 ニホンジカ(成獣)85頭 ニホンジカ(幼獣)2頭 サル(成獣)126頭 サル(幼獣)14頭 アナグマ27頭 タヌキ9頭 ハクビシン51頭 カラス16羽	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	—	—	少しづつではあるが、豚熱の影響も緩和しつつあり、イノシシの捕獲実績も伸びてきている。その他の獣種についても、捕獲者の精力的な活動により、年々捕獲実績が伸びている。これにより、農作物に被害を与える有害鳥獣を適正な個体数に近づけることができた。被害金額や被害面積も目標値に向け着実に減少している。	合計値	7,116	10,260	7,994	27.9%	6.36	9.63	8.69	71.3%
					(R5) イノシシ(成獣)319頭 イノシシ(幼獣)70頭 ニホンジカ(成獣)70頭 ニホンジカ(幼獣)2頭 サル(成獣)80頭 サル(幼獣)15頭 アナグマ35頭 タヌキ22頭 ハクビシン85頭 カラス34羽	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	—	—										
					(R6) イノシシ(成獣)408頭 イノシシ(幼獣)103頭 ニホンジカ(成獣)77頭 サル(成獣)21頭 サル(幼獣)3頭 アナグマ34頭 タヌキ38頭 ハクビシン72頭 カラス23羽	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	—	—										

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	獣種	被害防止計画の目標と実績									
											被害金額(千円)				被害面積(ha)					
											現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
森町有害鳥獣対策協議会	森町	令和4年度 ～ 令和6年度	イノシシ ニホンジカ	推進事業	(R4) 囲い罠1基購入	森町有害鳥獣対策協議会	R5.1.30～	—	同時に複数頭捕獲できる囲い罠を導入し、捕獲機材の拡充と捕獲効率の向上を図った。	イノシシ	5,140	4,626	1,624	684.0%	2.64	2.37	1.65	366.7%		
					(R5) 囲い罠1基購入	森町有害鳥獣対策協議会	R6.3.11～	—		ニホンジカ	4,294	3,864	841	803.0%	0.79	0.71	0.94	-187.5%		
				緊急捕獲活動支援事業	(R4) イノシシ 98頭 ニホンジカ 117頭	—	—	—	緊急捕獲活動を実施することで、個体数の減少、被害の減少に努めた。また、推進事業で導入した捕獲機材を活用することで、捕獲活動の強化を図ることができた。	カモシカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					(R5) イノシシ 121頭 ニホンジカ 214頭	—	—	—	緊急捕獲活動を実施することで、個体数の減少、被害の減少に努めた。また、推進事業で導入した捕獲機材を活用することで、捕獲活動の強化を図ることができた。	カワウ・アオサギ	1,000	900	260	740.0%	—	—	—	—	—	
					(R6) イノシシ 138頭 ニホンジカ 194頭	—	—	—	緊急捕獲活動を実施することで、個体数の減少、被害の減少に努めた。また、過去に推進事業で導入した捕獲機材を活用することで、捕獲活動の強化を図ることができた。	合計値	10,434	9,390	2,725	738.4%	3.43	3.08	2.59	240.0%		
				推進事業	(R4) 【協議会】 ①ヌートリア捕獲用小型箱わな20基購入 【実施隊】 ②ネット式囲いわな(1基)多頭捕獲実証実験	浜松地域鳥獣被害対策協議会	①R5.3.20～ ②R5.3.16～	①100% ②100%	①ヌートリア被害に悩む市内の農家へ無料貸出を行った。実績はR4:貸出0件・捕獲0件、R5:貸出19件・捕獲11件、R6:貸出23件・捕獲24件。年度を追うごとに件数が増加し、農業者自身による被害対策に役立てることが出来た。 ②餌付けによる捕獲準備に時間がかかったが、2回の捕獲でイノシシを4頭捕獲することが出来た。	イノシシ	22,341	18,199	15,938	154.6%	94.86	77.34	48.08	267.0%		
					(R5) 【協議会】 ①シカ革コインケースづくりワークショップの開催 【実施隊】 ②無線式捕獲パトロールシステム実証実験 ③既存のイノシシ柵を利用した侵入防止柵実証実験	浜松地域鳥獣被害対策協議会	①R6.3.22実施 ②R5.11.30～ ③R6.3.15～	①100% ②100% ③100%	①イノシシやシカなどによる農作物被害の現状、捕獲鳥獣の利活用について知ってもらうほか、シカ革コインケースの制作を通じ、被害防除の意識向上に繋げた。定員20名、申込30名、当日参加18名。 ②無線式捕獲パトロールシステムを天竜区エリアにて試験的に導入。地元猟友会の協力のもと捕獲確認通知の情報共有により、山間地域での「わな捕獲確認」に割く人的労力と時間を削減することが出来た。 ③県農林技術研究所の試験成果に基づき、シカ被害に悩むみかん畑にイノシシ用既設電気柵に並行してネット柵を新規設置し、シカ・イノシシ併用の侵入防止柵に改良した。現在のところ、シカ被害の報告は無し。	サル	352	287	251	155.4%	0.41	0.34	0.21	285.7%		
					(R6) 【協議会】 ①シカ革コインケースづくりワークショップの開催 【実施隊】 ②シカ用嵩上げ柵設置によるシカ侵入防止実証実験	浜松地域鳥獣被害対策協議会	①R6.12.24実施 ②R5.11.30～	①100% ②100%	①イノシシやシカなどによる農作物被害の現状、捕獲鳥獣の利活用について知ってもらうほか、シカ革コインケースの制作を通じ、被害防除の意識向上に繋げた。定員20名、申込35名、当日参加19名。 ②集落内でシカが頻繁に侵入する箇所を特定し、イノシシ用既存柵の上部へ新たに嵩上げ用ワイヤーメッシュ柵を取り付けることにより、地盤からのWM上部までの高さを150cm以上確保。また、試験地にはシカの侵入防止柵に対する反応を確認するため、周辺にセンサーカメラを設置した。カメラ設置期間中は柵からのシカ侵入は見られなかった。	ニホンジカ	22,874	18,634	16,319	154.6%	37.82	30.84	19.17	267.2%		

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	獣種	被害防止計画の目標と実績								
											被害金額(千円)				被害面積(ha)				
											現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率	
				緊急捕獲活動支援事業	(R5) イノシシ632頭 サル91頭 ニホンジカ832頭 ハクビシン151頭 タヌキ65頭 アライグマ10頭 アナグマ51頭 ノウサギ0頭 ※市単実績 カラス149頭 ※市単実績	—	—	—	ハクビシン・タヌキ・アライグマ・アナグマ:被害額はほぼ横ばい。捕獲により被害拡大に歯止めがかかっていると推測される。アライグマの生息域の拡大・個体数の増加が推測される。 ノウサギ:被害報告はないもの、潜在的な野菜・果樹幼木への被害が発生していることが推測される。 カラス:農作物全般に被害がある。どのような対策が効果的なのか検証が必要。	アナグマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					野ウサギ					—	—	—	—	—	—	—	—	—	
					カラス					891	726	636	154.5%	1.07	0.87	0.54	265.0%		
					合計値					51,570	42,010	36,791	154.6%	141.40	115.29	71.67	267.1%		
湖西市	湖西市	令和4年度 ～ 令和6年度	イノシシ ハクビシン カラス	推進事業	—	—	—	—	—	イノシシ	1,930	1,834	2,764	-868.8%	3.31	3.15	3.45	-87.5%	
					—	—	—	—	—	ハクビシン	1,200	1,140	1,200	0.0%	3.00	2.85	3.00	0.0%	
					—	—	—	—	—	カラス	390	371	4	2031.6%	1.00	0.95	0.04	1920.0%	
					(R4) カラス154羽 イノシシ9頭 ハクビシン4頭	—	—	—	—	合計値	3,520	3,345	3,968	-256.0%	7.31	6.95	6.49	227.8%	
					(R5) カラス196羽 イノシシ45頭 ハクビシン7頭	—	—	—	—										
					(R6) カラス113羽 イノシシ67頭 ハクビシン5頭	—	—	—	—										

〈達成率の求め方〉

被害金額				達成率
基準値(R2)	目標値(R6)	実績値(R6)		
150	140	130	→	200.0
↑入力	↑入力	↑入力		↑自動計算

被害面積				達成率
基準値(R2)	目標値(R6)	実績値(R6)		
100	90	110	→	▲100.0
↑入力	↑入力	↑入力		↑自動計算

(補足)

達成率の求め方: $\{(基準値-実績値) \div (基準値-目標値)\} \times 100$

※「被害面積及び被害金額の達成率がいずれも70%未満」の場合は、改善計画を作成する必要があります。

←こちらの計算式を活用してください。